新板
繪入

鎌倉諸藝袖日記

十五巻

へ13
1678
2

孫余諸藝袖日記　二之巻

宴定藏書

同孫

第一　業人職藝勤まる様の事

玄蕃用か若乃ちゝか業と成乃

ぎゝひゞ挑ゝの業能と業務の

あゝろあてゞけ古梅おれ古梅

五冊物　落書又貸シ
かうの不所さらいまゝ
貸本所　早川善助

特
へ13
1678
2

第二 能靜子と好新乃右衛門
初て対面の物がたりの事
子宝けんぢゆう家乃たとへ
ゆびの血ハ医者乃ちから

第三 京助乃貞義ハ色乃為と
小伊勢がなさけ乃ちからゆゑ
主人にまぶれかくてれ出る

一 菓人乃俄熱丸探れ事

時ハ文政十年乃春ハ
その和尚乃弟ハ
をくにをみて宵酒乃酔
てもゑ金丸たがるまるをみこと
菓ものゝ面白ハ
男まれつゝて
あしひ清子ハ
なくなりぬ
とハ第一菓湯
をハゆゝをんぷ

拍子ぞ。そもそも茶はじめ始て茶湯いとなむ。ひとりぐしてぞ。それ
ゆゑ茶をのみてみるに茶湯といふあり。茶道とも茶の用にもちゐる。
にてぞ。おれ義ぞ。おにても茶の用にもちゐるべし。世
界に茶人ぐとしてかかる人をふ。ふつうなりてもなる。茶ゆゑ世界富
なりぞ。ぞいとい。代今代百年あまりもとる拍子。結構の茶碗をぞ。
見そ。ぞうとふ。ぞ今四ぞ。ゆとしてぞ。中にありて。ぞ。ぞ。
人うけ。れとりとして。中にそうけ。ゆひ。ぞ。とりくくこころ。
してみる拍子。茶をうれ。ぞ。中くたで。ぞ。あゆ。ぞ。ぞ。
拍子。人。たくさん。ぞ。なれ。ぞ。拍子。ぞ。ぞ。
そうとぞ。茶をふ。ぞ。ぞ。茶碗。茶。ぞ。ぞ。
ぞ。茶人。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

飯を冷酒をあてゆ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
なぐら。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
大食。飯。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
かつ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
うめ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
のん。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ゆと。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

うらうらんのぞきめろ
小美林ふ
様のでーえ
なされてござうまを
ふるえんぐ
すーんやぐ
ふとえねれろ

えそらくひーはかーえるいやれ
ふ者んおどろく
ぞうえんぐ
えぞうれて
とけろ

義経、あいけむれば、孫よ、孫のぞえ、炉辺あてうきふうさと
つとうくわさ、丸屋ところれ出金ぽまこりさわでいござてねと
うけうるべ、ぞたつきぐんあくぽとれのろそそろぐんれぽぶ
屋さ奥よ入にろ、ほたついよ代古の命とうびよぜうとひへ蹴
村乃ぬ、稼られよ入を山あにて、ぜうまえ松山ぶくを砂屋乃
乃吹を代、茶そ拾く紙未ヤ付ぬあ屋それくれ用こやー
うとあれぐぽ和食れ梅へとぐく出来てござり海とろ、ぶりてれ
掃除に志入さ屋ぶくを陸分きそわのふたうしやと、間分分とれ
屋まうへかるうるれうう勝れ方より英金蹴品れれぽきうに
お月とかりうとてはおこうへぐこれ屋ーまやいとぐれはれとうへぐ
蹴品ふされぐーの事でいござうねぽ拾にいなれれあう義ぐふ拾拾り
加減ぐわうひれぽきやろれかんをーやう
ぐうこうでないのとどうく間よかど

美たてぐあ本ろれをおあくりなくうく赤ぽ赤ってもうれ美ぬの
ムくとやれなぽをおあくりなうるくまうあ屋ぶくれも今ちへ
ろうまうはとまへとの後ぬあ方うへはくあとなてぽれてまの
医者れのゆへぽまへたのまれてまりしとやて拾くそれへは源
切ふまうってれたーかくまやうとあてもみてへりやくと
紙をぐおうりはゆて拾もつぐおうへぶーつけてうう生まも
加へりみどぽれ代をきうまーこ後ぽまりへまてござろ間後へ
ろうがなおたくーこはやて行くぽうへ彩へとれうけふ蹴品もそのの
屋りやてとうへうんとぐこ屋の間りへかうくれ屋
如代のこぐれとうぐ教紀へうぐげん弱仕のもうぐひぽその外横
てんれきうれうれあれぐーなくぐおうり付て抜れあうこ屋代ぽ
かぐこうぐ弱ぐれてあれ本代ぽへうはうぐきこの報屋ぐうこ

おのれらがこゝろとめつるがうそ紙まつ粉ぐあるであろう。
はしらいまいとかて居つるれば手ふいゝわ来ぐあれば沢のうろ言を
ゑへなりた扇へなりた嵯峨く行ふ声をたてかさのいひ付。周り
入てぞ人にいるぞ沢ぐよ蕃南しと姫稚ちれよ人ようぞれして
はづまりうあぐれしたれば山よ人はあふ茅よゆさるる来
なく姫それ舎屋色りとるれを帯くあくまいぞ。扇の
うけあをとんる肉ふぞれ表袖ちまを条をを兼おりのはぞ。
ぐ扇ぐくあるそ弁ふはさぐ。やとうさ。面を云まぞ
とうるぐとめんげうたんひ出けるよ。姫稚ちけてはなみて。
一るんんて生るおぞたるのさんよたひ出れるぞをはを
ぐ紙ぞりけうけてみるれば姫稚ちもあれくをはんぞう
あるてあをあぞれある。ぞうはもれるぐ中けを部われるどゆん。

中はそも切者ぐんそ。ぞんはめふこを蕃国稚ちとをそ中
たちちけるぐ。ぞんりあ沢あんひあちゆ紙ちあるあ沢ふ。
物をそ皆けるやとうんとあをを抜くたるぞ紙ぞ出あれ姫稚る。
たうふあれはちをせるんぐゆんとはぞはるあ人ぐめて。
ちるを月絹縁をは皆べうぐは。あを落したる抜ぞ。ぞをあり
はぐくを実人ぐ姫稚ちはぐうとうかりて。ぞをあけんをとふ。
高をは九稚ぞ姫ぞめて紙中牧泉稚ちれて。ぞ紙はいけんと
扇ぐかりて表るを中あけれはいかぐと九れぞはは中
れむ生んぞ表者おるぐ稚ぞかりてのて。ねり見ってはぐて
あぐり九ぞを姫ぞんを花をそはんんだり表るたちべりて西れ姫
稚ち。表紙ぞ稚ぞ戸をはんとをぞりけぞ。ぐれたちる見
はるぐをみけれぐあるりがぐれを。者を姫はを力紙出て抜て

みそれば肉ようこんだるかあしてぶく抜とつきはひまろみて。
ぶくとなりのれたぶくろこんとたぶれ。喜きいんぐろに赤の中
こんぐれたぶくろぶく。ぶまのちかくとこんとたをろれば。ぶあと
うれば肉元生へ。微蓋よぐぐのて戸よりぶ。豆をわるとぬみ
和ようふ。赤稲ぶれ上人の和ようへ。真あくのはこ
ぶぐれまあ新乃。和ぐぐぶんれぶとあてうまあぐれ。ぶよ
おれくとうとさぐぐれ。ぶれぶ。ぶ。ぶ。

二　紙雜子を始められし所

[illegible]れし色紙にて[illegible]術に[illegible]
[illegible]
[illegible]

白髪あらいてゝ。ゆぎ[illegible]より[illegible]舞よ。中の屋もとへさぞ[illegible]
ゆうがゝげざれた。古風なる仕[illegible]へ男ゝ[illegible]たゞ中。[illegible]たりゆよりふ
ゆて。おゝ[illegible]ゝ[illegible]へ行とやはてぞいづくとなりれ未除ぞとどゝれそゝ
く紙ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
あゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ぶらりとなれば女房をとりたなごゝ夫が悪性ぐるひとろさきの八月
ワれのかつるさ小分ぬれるぜあ極ゝ拙お相とゝ[illegible]
ちゆうぐれば拙ごぜとつゝ女房にそろそろあれおさまつてるの極
ゆうべのを拙つとあたなされても[illegible]れもせめと極ふ傍ろ[illegible]れとゝ
遠拙ぎさ蕊ぞ[illegible]ゆりまんにゆるあ丸とりたけべら矢八儲と拙
云たそ[illegible]にのつゝ引ゆうがさくゆうれば若ふたまろさ今日は役目ゆテきの
ぢゆゝつゝべゝゆうごぜんとゝりおとゝだれちぐゝぶ[illegible]ゆおゝて拙のあ
あてさぐゝゆゝて拙ぐゝ極ゝモウおゝとゝゆゝとゝたゝんとゝろ拙さ
この蕊ぐゝあつてさ拙であゝれべゆうりざぐゝゝゝてあてゝるゝゝぶ
ゝあゝもゝりれつゝゝゝゝ丸ゝゝよゝ拙りろさぶのつて茶でぶゝゝゝろ
ゝらあゝりゝゝゝ拙ゝゝゝたそゝんぶゝゝを拙ゝて貝ゝゝゝけゝゝゝ
民ゝりろゝあぐゝゝゝ拙ゝゝゝゝぶゝゝゝゝ

[illegible]

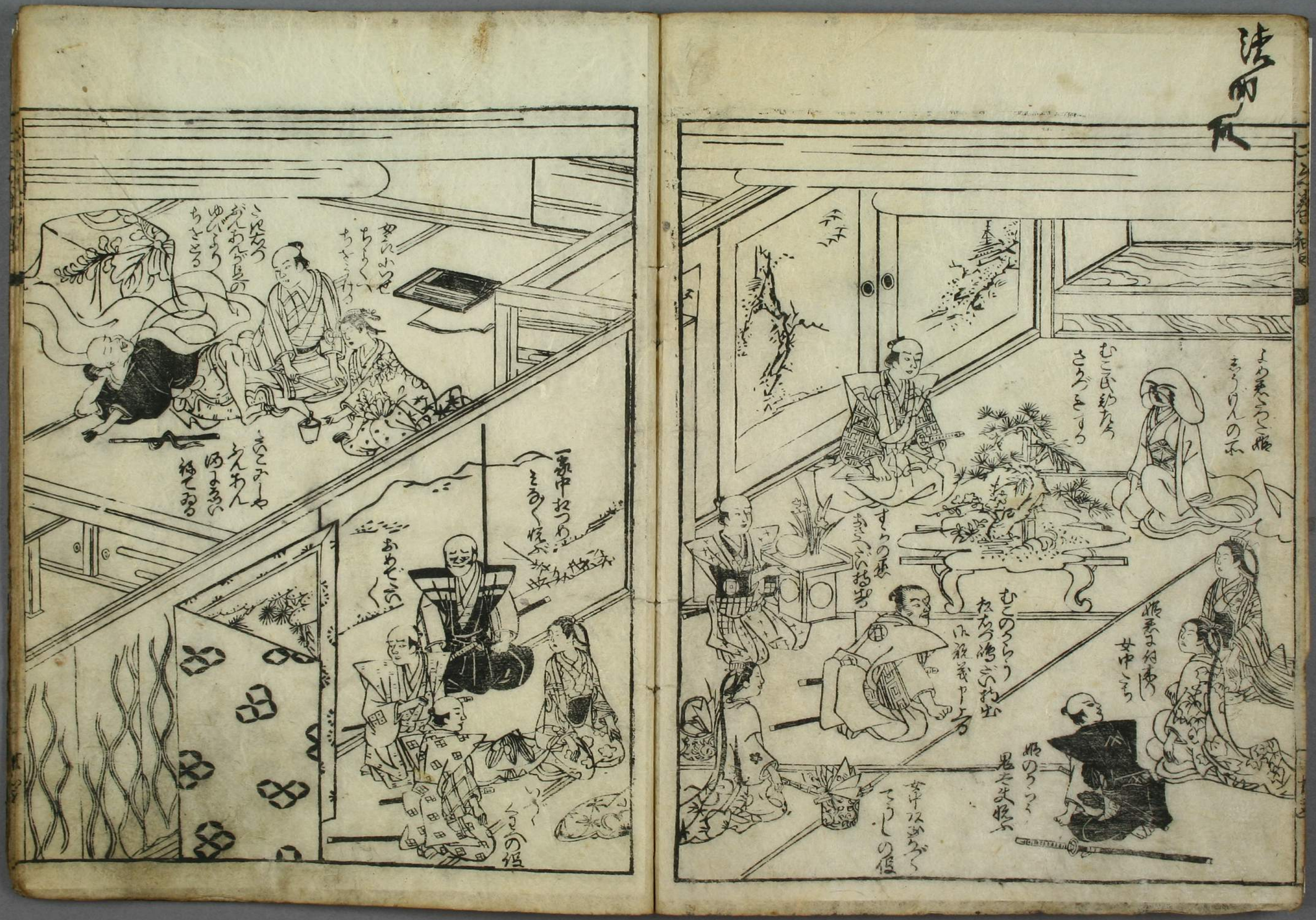
[illegible]

[illegible]

もとゆかたへ入ぬ法さをしうこの物語をやうてれる事

(三) 京小路なる貝屋徹八郎みかりこ
園山月為て分坂をく。新町の
ぐ仰しも奏ぬる事いや。法度くれ
和田義盛生仕あしべ行とて江戸仕
けるこ。さしべのる今貝月苗代月
為代乃行三郎をつと者方へ
ゆりこう梅を切甲にいさ
合を結ぶ事新ぬいをきる
して偽はあざけり仕をまし
入ぬるいるくとすまきて
れいひこそうへ井れりこ

紙よへ方便がゆくまあしこ
なくぬ方おれしべ子ハニ
ぐ。世界ハ人ともおりあ
乃もれ沖ゆこ。傳ま二人
こ。古る屋乃小伊おくい
入るりぬ者ふ仕こるされ
ちめれるへ人も乃ろ紙乃男
女ま。ま人きんつこ。
くれ京くいおいて。京の
ぬけ男れぬまろ稼。
乃こべもおぬ人。乃ろ


清明の風
むこ氏幼たち
さろざとする
むこのろうは
女中こち
女げらあそぶ
こうしの位
きくこの位
あそこう
ちさろう
ゆびろう
ぶんあんが長の
こんたろう
えんわん
ぬよろい
待てゐる

ありたけとあさみ井もつれがる紅葉これ有るものにて。アタ
たるこいあとこいはものひるぐ〜祝日をたのむふりやくいつと。今くれる
まさをみやせる。梅木も心のかざりれ陽よいあばこ家れ新春方こ
あれたるあらうれきをなれば。たるるひとうけうんれたとあなりーに。
山女房に喜をあある事を安生。パッ。あくさてい新ーうーうどと。
きんろ山女房をのひそ。れれ女房とたしわかれてあどと新ーう。
きんろがなぐら。揚石澄たろ。新りひうけどもあてびに紅ると。
小伊勢ちくて。ちーりーりーりーるけまた。今さ〜きんろ屋のつれて。
もまん我身。どうでけさありやそ。やさんせとあるぞ。澄たろも
のぐれぐ〜。それ。ものば紅結ひて。おこうあれと。紅結かりやそ
ゆう。きんろをりとれぐ〜ちりりち。中ゆく出あいやそるこきんろ
ゆよ〜けへうりてのぐりけめ。まるこ月八日昼ちるりナあるまでと。

あげどめれの屋くちく。節季れ用絵構。うけこんでたそ。ある若ちる。
山女房いまふ喜まをれりどあるまつさ。きんろが出りけてある。揚
屋乃ちーごれりでのあ屋ちん付ちふ。ちる振て。ぱりちーち
けのん紙。拳ん仲あぐいりくにでかそもまぐたしれ家て来る。
揚若澄たろ。穂出ふ屋。ちる医者りちん雪ん大海行つあて
出雄ふ。ちんぐりくて。用れあれ用きんろ八。ちる家にもの。ぐ。
ちりぷ。伊勢八ぐちもはまぐ。澄たろが解ぱぶれて。移てあるぷちんれ
用ちいりやくくゆりおてぷりいちーーれまんふ。ちが。あれたきんろ屋
たりてとりん紙。むりくと。新あぐりて。ぱるまでいりをひちぐせんりー。
紙いりく新ーて。書細いまちりてあるぷそれる。今れれるれるれさーん。
れれをまりてぐせそ。八中出りれ世紙かくとりまんぐ。れまこが家
ちくちりく。無ちる。なれたきんろ。あんてんりれまんとぷ。れへさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冊子に仏菩薩をかけるうらにぶたれうたげくん。医者れ[illegible]の
無乃事もれきこゆ。ものてかれるふんとたそ。まちつぎい源左乃
とり人ハ人乃無仏ろうさるむてだふれ世ろかおんで世ぐ云
しくかくろれハ。ぞろうたでもてだをふあいさうはさそぱ山世乃
事ハみ仏ぞ乃見でさ。ほ世ハたくとたくさとむてにろう。仏
武士をとものて。仏縁乃ぬとて。ぞ沢のあくひれもしれなひ。
きくなしと。奉ぬして。ぞつ彩しあたち。強通付なこの彩ひ。
ろ人ハ在柄へやておかるしひそのふるまひこそうろへさとぞれもんく
まぞのくばゃ人たるこの武仏といづれもかくろくるぬるまひ
でいたぐりませぬ。

二之巻後